

# 第3章

---

目指す食料・農業・農村の姿

## 第3章 目指す食料・農業・農村の姿

### 第1節 基本理念

小郡市食料・農業・農村基本条例第2条に下記のような基本理念が示されています。

#### 「小郡市食料・農業・農村基本条例」第2条(基本理念)より

食料は、健康で豊かな生活を支えるものであることから、安全で安心できる農産物が安定的に生産され、供給されることにより、将来にわたって食料に対する市民の信頼が確保されるとともに、地域で生産される農産物の域内での流通及び消費を促進し、食の重要性に対する理解の促進と地域特有の食文化の継承が図られなければならない。

農業においては、農地、農業用施設その他の農業資源及び多様な担い手が確保され、地域の特性に応じた収益性の高いゆとりある農業が営まれ、かつ、良好な自然環境と調和した持続的な発展が図られなければならない。

農村は、食料の生産のみならず、良好な景観の形成、水源のかん養、自然環境の保全、洪水の防止、生物多様性の保全、文化の伝承等の多面的機能を有し、自然と人間との共生ができる調和のとれた空間として整備され、かつ、保全されなければならない。

### 第2節 目指す食料・農業・農村の姿

条例第2条の基本理念を踏まえ、目指すべき小郡市の食料・農業・農村の姿を以下のよう

#### 「食」と「農」を協働で育み、健康で豊かに暮らせるまち・おごおり

〔食料〕



〔農業〕



〔農村〕



目指す食料・農業・農村の姿や条例第7条に示された10項目の基本的な施策を踏まえて、食料、農業、農村の各分野における将来像を以下のように定めました。

### 食料像の基本的な考え方

H26年2月アンケート結果によると、市内の直売所で購入している人は約15%に留まっていますが、直売所で購入する理由は、「新鮮で品質が良い」「価格が安い」「安全で安心だから」が圧倒的に多く、地元で生産された農産物が求められています。地域で生産された食料は、地域で消費されるという地産地消の推進を通じて健康で豊かな食生活の実現を進めることが重要です。

#### 食料像

地産地消を推進し、健康で豊かな食生活の実現

### 農業像の基本的な考え方

緑園都市・おごおりを推進するためには、持続的な農業の確立をめざす必要があります。そのためには、多様な担い手の育成を行い、農業経営の安定が確立され「職業として選択できる農業」を展開することが重要です。

#### 農業像

多様な担い手による豊かな暮らしを支える農業の持続的発展

### 農村像の基本的な考え方

生産者と市民を含む消費者が、農業や農村における交流・イベント等を通して、農村の多面的機能等に対する理解を得ながら、美しい自然と調和した農村づくり、田園都市・緑園都市・おごおりの農村振興を推進することが重要です。

#### 農村像

市民交流による田園都市・おごおりの推進

## 第3節 施策体系と施策の目標値

### (1) 施策体系



「食」と「農」を協働で育み、健康で豊かに暮らせるまち・おごり

**基本的施策の方向と施策・事業**  
(各々の施策相互の有機的な連携を図りつつ推進する)

**評価指標**

<p>(1) 地元産農産物の信頼の確保</p>	<p>1) 消費者が求める産地情報等の提供 2) 安全で安心できる農産物の流通</p>	<p>a. 地元産農産物の情報提供を行います</p>
<p>(2) 食育の推進、地域特有の食文化の発展と継承</p>	<p>1) 食育推進計画(おごおり食育プラン)の推進 2) 食と農をむすぶ取り組みの推進</p>	<p>b. 学校等で食育に取り組みます c. 食農体験に取り組みます</p>
<p>(3) 地元産農産物の域内での流通及び消費の促進</p>	<p>1) 地産地消の推進</p>	<p>d. 市内直売所の認知度を高めます e. 市内直売所の年間利用者数を増やします f. 学校給食への地元産農産物の使用率(学校給食自給率)を向上させます</p>
<p>(1) 多様な担い手の育成・確保</p>	<p>1) 認定農業者等の担い手の育成・確保 2) 新規就農者及び後継者の育成・確保 3) 女性・高齢農業者等の多様な担い手への支援</p>	<p>g. 認定農業者数を増やします h. 集落営農等の法人化を推進します i. 新規就農者数を増やします</p>
<p>(2) 収益性の高い農業経営の確立、競争力のある産地の育成</p>	<p>1) 収益性が高く安定的な農業経営の確立と地域農業の維持確保 2) 産地銘柄の確立(ブランド化)と6次産業化の促進</p>	<p>j. 販売金額年間1千万円以上の農業経営体を増やします k. 農地の流動化による担い手への集積面積を増やします l. 農地の利用権設定率を向上させます</p>
<p>(3) 農業生産基盤の整備と優良農地の確保</p>	<p>1) 農業の生産基盤であるほ場、農道、用排水路及びため池等の整備・更新 2) 遊休農地の解消等による優良農地の確保</p>	<p>m. 農業用施設等を計画的に更新します n. 耕作放棄地の発生を抑制します</p>
<p>(4) 環境保全型農業の推進と自然循環機能の維持</p>	<p>1) 環境に配慮した農業生産の推進 2) 自然循環機能の維持増進</p>	<p>o. 環境に配慮した農業生産に取り組む農家を増やします p. 環境保全型農業直接支援対策の取り組み面積を増やします</p>
<p>(1) 農業・農村の有する生産及び多面的機能に対する市民の理解の促進</p>	<p>1) 農業及び農村に関する情報の提供 2) 農村(生産者)と都市(消費者)との交流の促進</p>	<p>q. 農業・農村に関するイベント情報を提供します r. 小都市食料・農業・農村基本条例及び基本計画の認知度を高めます</p>
<p>(2) 多面的機能を発揮させる環境整備の推進</p>	<p>1) 農業・農村の多面的機能の維持・向上 2) 農村の景観等を活かした地域振興</p>	<p>s. 多面的機能を発揮させる環境整備を進めます</p>
<p>(3) 女性農業者の地位向上、男女共同参画社会の確立</p>	<p>1) 女性農業者の地位向上 2) 女性農業者の地域における意思決定の場への参画促進</p>	<p>t. 家族経営協定締結数を増やします u. 農政関連の委員会等への女性の登用率を向上させます</p>

## (2) 施策の目標値

本市が目指す食料・農業・農村の姿である、『「食」と「農」を協働で育み、健康で豊かに暮らせるまち・おごおり』の実現のため、本市の食料・農業・農村の現状と課題を踏まえ、「食料」「農業」「農村」の分野ごとに具体的に目標値を設定し、取り組めます。

### 《評価指標を目指した目標値》

#### ■ 食料 「地産地消を推進し、健康で豊かな食生活の実現」

##### a. 地元産農産物の情報提供を行います

内 容	現状値 (現況年度)	目標値 (目標年度)
地元農産物の情報提供数	3 回 (平成 25 年度)	15 回 (平成 36 年度)

【現状値】：市農業振興課把握値

【目標値】：単年度目標値(月 1 回)

##### b. 学校等で食育に取り組めます

内 容	現状値 (現況年度)	目標値 (目標年度)
食育等に取り組んでいる小中学校数（農業体験等含む）	13 校 (平成 25 年度)	13 校 (平成 36 年度)

【現状値】：おごおり食育プラン(平成 24 年 8 月作成、現況年度は平成 22 年度)

【目標値】：取り組みの内容の充実

##### c. 食農体験に取り組めます

内 容	現状値 (現況年度)	目標値 (目標年度)
農業関連イベントの開催数	2 回 (平成 25 年度)	4 回 (平成 36 年度)

【現状値】：市農業振興課把握値

【目標値】：単年度目標値

##### d. 市内直売所の認知度を高めます

内 容	現状値 (現況年度)	目標値 (目標年度)
市内直売所の認知度	71 % (平成 25 年度)	80 % (平成 36 年度)

【現状値】：市民アンケート(平成 26 年 2 月実施)による

【目標値】：現状値の約 10%増

## e. 市内直売所の年間利用者数を増やします

内 容	現状値 (現況年度)	目標値 (目標年度)
市内直売所の年間利用者数	148 千人 (平成 25 年度)	200 千人 (平成 36 年度)

【現状値】：「宝満の市」「めぐみの里」からの聞き取り数

【目標値】：現状値の約 30%増

## f. 学校給食への地元産農産物の使用率(学校給食自給率)を向上させます

内 容	現状値 (現況年度)	目標値 (目標年度)
市内小中学校給食への地元産農産物の使用率(学校給食自給率)	16.7 % (平成 25 年度)	30.0 % (平成 36 年度)

【現状値】：「小郡市食と農推進協議会」資料より

【目標値】：「第2次食育推進基本計画」(国)の目標値より

## ■ 農 業「多様な担い手による豊かな暮らしを支える農業の持続的発展」

## g. 認定農業者数を増やします

内 容	現状値 (現況年度)	目標値 (目標年度)
市が認定した農業経営改善計画の認定経営体数	122 経営体 (平成 26 年度)	132 経営体 (平成 36 年度)

【現状値】：小郡市認定件数(H26.10.20 現在)

【目標値】：市総合振興計画目標値(現状値の 10%増)

## h. 集落営農等の法人化を推進します

内 容	現状値 (現況年度)	目標値 (目標年度)
集落営農等の法人化数	3 法人 (平成 26 年度)	6 法人 (平成 36 年度)

【現状値】：市農業振興課把握値(H26.10 月末現在)

【目標値】：市総合振興計画目標値(現状値の倍増)

## i. 新規就農者数を増やします

内 容	現状値 (現況年度)	目標値 (目標年度)
新規就農者数(農業後継者含む)	4 人/年 (平成 25 年度)	5 人/年 (平成 36 年度)

【現状値】：平成 25 年度福岡県青年農業者及び新規就農者実態調査結果

【目標値】：単年度目標値

j. 販売金額年間1千万円以上の農業経営体を増やします

内 容	現状値 (現況年度)	目標値 (目標年度)
販売金額年間1千万円以上の農業経営体数	61 経営体 (平成 22 年度)	74 経営体 (平成 36 年度)

【現状値】：2010年世界農林業センサス(農産物販売金額規模別農家数)より

【目標値】：現状値の約20%増(30経営体(700万円以上~1,000万円未満)の約半分)

k. 農地の流動化による担い手への集積面積を増やします

内 容	現状値 (現況年度)	目標値 (目標年度)
認定農業者等の担い手に利用集積される農用地の面積シェア	75.8 % (平成 24 年度)	80.0 % (平成 36 年度)

【現状値】：市農業振興課把握値

【目標値】：農業経営基盤の強化の促進に関する基本的な構想(平成26年9月改正)目標値

l. 農地の利用権設定率を向上させます

内 容	現状値 (現況年度)	目標値 (目標年度)
農地の利用権設定率	42.9 % (平成 25 年度)	50.0 % (平成 36 年度)

【現状値】：市総合振興計画現状値(平成25年度農業委員会)

【目標値】：現状値から1%弱/年の増

m. 農業施設等を計画的に更新します

内 容	現状値 (現況年度)	目標値 (目標年度)
①県営両筑平野かんがい排水二期事業の進捗率	0 % (平成 26 年度)	43 % (平成 36 年度)
②ため池等整備事業や農業用河川工作物応急対策事業等の取り組み数	2 箇所 (平成 26 年度)	2 箇所 (平成 36 年度)

【現状値】：①平成26年4月1日現在の進捗率0%

【目標値】：①平成26~48年度事業10年/23年=0.43

【現状値】：②平成26年度に市内で事業を実施している箇所数

【目標値】：②単年度目標値

n. 耕作放棄地の発生を抑制します

内 容	現状値 (現況年度)	目標値 (目標年度)
耕作放棄地の面積	2.7 ha (平成 25 年度)	2.7 ha (平成 36 年度)

【現状値】：荒廃農地の発生・解消状況に関する調査(平成25年度調査値)

【目標値】：現状維持

## o. 環境に配慮した農業生産に取り組む農家を増やします

内 容	現状値 (現況年度)	目標値 (目標年度)
ふくおかエコ農産物認証制度、エコファーマー、有機農産物(有機JAS)の認定者数	53 戸 (平成 25 年度)	65 戸 (平成 36 年度)

【現状値】：市農業振興課把握値(平成 25 年 4 月現在の県認定数)

【目標値】：市総合振興計画目標値(現状値の 20%増)

## p. 環境保全型農業直接支援対策の取り組み面積を増やします

内 容	現状値 (現況年度)	目標値 (目標年度)
環境保全型農業直接支援対策による取り組み面積	0 ha (平成 25 年度)	70 ha (平成 36 年度)

【現状値】：市農業振興課把握値

【目標値】：目標値として設定

## ■ 農 村 「市民交流による田園都市・おごおりの推進」

## q. 農業・農村に関するイベント情報を提供します

内 容	現状値 (現況年度)	目標値 (目標年度)
農業・農村との交流イベント情報の提供数	4 回 (平成 26 年度)	20 回 (平成 36 年度)

【現状値】：市農業振興課把握値 (平成 26 年 10 月末現在)

【目標値】：目標値として設定

## r. 小郡市食料・農業・農村基本条例及び基本計画の認知度を高めます

内 容	現状値 (現況年度)	目標値 (目標年度)
小郡市食料・農業・農村基本条例及び基本計画の認知度	2.4 % (平成 25 年度)	50 % (平成 36 年度)

【現状値】：市民アンケート(平成 26 年 2 月実施)による

【目標値】：目標値として設定

s. 多面的機能を発揮させる環境整備を進めます

内 容	現状値 (現況年度)	目標値 (目標年度)
①農地維持支払交付金事業に取り組む組織数	27 組織 (平成 26 年度)	29 組織 (平成 36 年度)
②資源向上支払事業（共同活動）に取り組む組織数	24 組織 (平成 26 年度)	25 組織 (平成 36 年度)

【現状値】：市農業振興課把握値(平成 26 年 10 月末現在)

【目標値】：目標値として設定

t. 家族経営協定締結数を増やします

内 容	現状値 (現況年度)	目標値 (目標年度)
市が立会人となった家族経営協定の累計締結数	21 件 (平成 26 年度)	56 件 (平成 36 年度)

【現状値】：市農業振興課把握値(平成 26 年 10 月末現在)

【目標値】：現状値の約 2.5 倍増

u. 農政関連の委員会等への女性の登用率を向上させます

内 容	現状値 (現況年度)	目標値 (目標年度)
市が委嘱・任命する農政関連の委員会等への女性の登用率	28.6 % (平成 25 年度)	36.0 % (平成 36 年度)

【現状値】：市農業振興課把握値(平成 26 年 10 月末現在)

【目標値】：第 2 次小郡市男女共同参画計画(H26～35 年度：審議会等委員への女性登用の推進目標値)